

[た よ り]

大阪府支部だより

山川智之

1 支部の概況

大阪府下には大阪透析研究会と大阪透析医会の2団体があり、大阪透析研究会は主に学術団体として活動、大阪透析医会は日本透析医会大阪府支部として活動、ちょうど日本透析医学会と日本透析医会と同様の関係で緊密な連携をとりながら活動しています。歴史的には昭和49年3月に大阪透析研究会が発足し、その後、医療費、行政、患者会、医師会関係などを担当する組織が必要になり、昭和55年に大阪府私立病院協会透析部会が結成されたのが大阪透析医会の前身です。部会長・藪本秀雄（敬称略・以下同様）、事務局長・山川眞、顧問・前川正信、また役員には大阪透析研究会

の役員が併任という形でスタートしました。実際には私立病院だけでなく、公的病院、診療所の先生にも活動して頂く必要があり、昭和63年3月27日に私立病院協会を離れ、大阪透析医会が設立され、初代会長として前川正信が就任しました。平成8年10月29日には大阪府医師会医学会への加盟が認められ、会員も増え、現在は施設会員189施設、個人会員140名、賛助会員2名となっております。

今年は両団体にとって節目の年となりました。大阪透析研究会は西澤良記大阪市立大学名誉教授（現大阪市立大学学長）から仲谷達也大阪市立大学教授に会長が交代、大阪透析医会も第二代会長・飯田喜俊（現白鷺病院顧問）から平成18年に引き継いで2期務めら

表1 平成22年度大阪透析医役員

会 長	山川 智之（白鷺病院）
副 会 長	岡田 茂樹（岡田クリニック）
常任幹事	東 勇志（あづま泌尿器科）、井上 徹（大阪医科大学）、大山 哲（大山クリニック）、大野 卓志（恒進會病院）、岡村 幹夫（大野記念病院）、河村 裕憲（河村クリニック）、北川 慶幸（北川クリニック）、佐藤 利行（明生病院）、長沼 俊秀（大阪市立大学医学部）、三上 裕司（東香里病院）、矢嶋 息吹（いぶきクリニック）、和田 晃（国立大阪医療センター）
監 事	田畑 勉（井上病院）、仲野 孝（小阪イナバ診療所）
幹 事	稲葉 雅章（大阪市立大学医学部）、榎本 康博（えのもとクリニック）、大道 武史（大道クリニック分院）、岡崎 修治（永山病院）、金原 裕則（かねはらクリニック）、岸田 直博（岸田クリニック）、金 昌雄（かいこうクリニック）、小角 幸人（高橋クリニック）、小早川 等（山口クリニック）、清水 秀和（小野山診療所）、杉本 俊門（大阪市立総合医療センター）、高橋 計行（恒進會病院）、武本 佳昭（大阪市立大学医学部）、谷下 氏人（阪和記念病院）、椿原 美治（大阪府立急性期・総合医療センター）、時実 孝至（時実クリニック）、仲谷 達也（大阪市立大学医学部）、西川 慶一郎（府中病院）、西川 光重（関西医科大学）、長谷川 廣文（近畿大学医学部）、早原 信行（榊原クリニック）、藤井 正満（東香里病院）、前 暢子（近森病院）、水谷 洋子（水谷クリニック）、宮野 元成（西出病院）、森本 聡（関西医科大学）、安田 英煥（三康病院）、横山 健二（大阪厚生年金病院）、吉原 秀高（吉原クリニック）、淀井 省三（淀井病院）、渡邊 太郎（豊中渡辺病院）
顧 問	飯田 喜俊（白鷺病院）、井上 隆（井上病院）、今田 聰雄（恒進會病院）、西澤 良記（大阪市立大学）、岸本 武利（トキワクリニック）、茂松 茂人（大阪府医師会）、小野 秀太（三康病院）

（敬称略）

れた小野秀太（三康病院）が勇退され、私が新会長となりました。歴史ある大阪透析医会の会長の重責を担うことは身の引き締まる思いではありますが、本会を発展させるべく全力を挙げて職務を全うする所存です。

大阪透析医会の今期役員を表1にお示しします。私立病院・診療所の代表者を主体としながら、公的病院、および大阪府下の5大学からもご理解いただきご参加頂いております。副会長の定数は2ですが、今年8月22日に今期の副会長をお願いしていました川村正喜先生（PL病院）がご逝去され、現在1名となっております。この場を借りまして川村先生のご冥福をお祈りします。

2 活動内容

小野前会長が会長に就任された平成18年に、委員会によっては活動状況に大きな差があったため委員会を再編、五つの主たる委員会および総務委員会、倫理

委員会の合計七委員会としました。今期も前会長の委員会構成はそのまま継承しております。表2に今期の委員会メンバーをお示しします。今期の事業計画は小野前会長時代と大きく変更はありませんが、今期は新たに「透析医の後継者支援」を事業計画に追加しました。具体的な事業内容は検討中ですが、昭和50年代前後に開業された透析施設がちょうど代替わりに差し掛かっている時期であり、先達が作り上げ育ててきた大阪の透析医療の質を維持・発展させるためにも、大阪透析医会として取り組んでいくべき事業として進めていく所存です。

委員会活動とは別に大阪透析医会は4月に総会と講演会、7～8月、11月の2回学術講演会を開催しております。最近の講演内容は表3にお示しします。透析室のスタッフを中心に毎回200～300名程度の参加があり盛況です。また毎年10月には大阪腎臓病患者協議会（大腎協）と意見交換会を開催しております。

表2 平成22年度大阪透析医会委員会構成

経営・医政委員会	◎北川, ○大山, 岸田, 金, 安田, 吉原, 渡邊, 時実
保険委員会	◎山川, ○東, 武本, 横山, 河村, 長谷川, 藤井, 水谷
透析者支援委員会	◎岡田, ○佐藤, 早原, 榎本, 清水, 淀井, 高橋, 宮野
災害対策委員会	◎岡村, ○大野, 前, 岡崎, 大道, 西川（慶）, 金原, 谷下
感染・事故対策委員会	◎和田, 井上（徹）, 杉本, 森本, 小角, 小早川, 矢嶋
総務委員会	◎山川, 岡田
倫理委員会	◎河村, ○長沼, 仲谷, 西川（光）, 三上, 稲葉, 椿原

◎委員長, ○副委員長

表3 最近の大阪透析医会の講演内容

H19.4.21	「国家財政と医療財源」	松山 幸弘（医療法人誠仁会）
H19.8.4	「透析業務における安全管理」	中西 秀紀（白鷺病院）
	「医療におけるヒューマンエラーとその対策」	河野龍太郎（自治医科大学）
	「腎性貧血治療の課題と展望—ガイドライン・包括化を踏まえて—」	椿原美治（大阪府立急性期・総合医療センター）
H19.11.10	「生体腎移植の現状と適応—臓器売買問題・海外渡航移植・病腎移植問題について—」	高原 史郎（大阪大学医学部）
	「日本の医療制度の現状とこれから」	酒井 英雄（大阪府医師会）
H20.4.12	「医療トラブルの現況—医療訴訟と医療崩壊—」	大城 孟（おおしろクリニック）
H20.8.2	「ミス撲滅による品質づくり」	飯野 謙次（SYDROSE LP）
	「CKD-MBDのガイドラインとその課題」	横山啓太郎（東京慈恵会医科大学）
H20.11.8	「透析患者の運動療法—血液透析中の集団運動療法—」	松嶋 哲哉（西新クリニック）
	「透析整形外科の現況」	今井 亮（桃仁会病院）
H21.4.25	「透析医療費を巡る諸問題」	高橋 進（日本大学）
H21.8.1	「医療安全における5S活動の意義と進め方」	高原 昭男（ベーシック・マネージメント研究所）
	「血液浄化における至適性とは？—モダリティと生体適合性の側面より—」	友 雅司（大分大学医学部）
H21.11.21	「その日暮らしの透析を考える」	鈴木 一之（仙台社会保険病院）
	「ふうてんの寅さんが透析患者になったら—家族精神医学の立場で考える—」	春木 繁一（松江青葉クリニック）
H22.4.24	「診療報酬改定と日本透析医会」	山崎 親雄（増子クリニック 昴）
H22.8.7	「コミュニケーションと医療安全」	岡本左和子（東京医科歯科大学）
	「糖尿病透析患者の治療管理目標—腎機能正常糖尿病患者との大きな違い—」	稲葉 雅章（大阪市立大学医学部）

（敬称略）

最近の医会の重要な活動として、透析患者の結核対策、インフルエンザ対策がありました。大阪府は全国一の結核蔓延地域であるにもかかわらず、昨今の結核医療政策によって結核病棟が激減、大阪府下に結核に罹患した透析患者を収容する施設がほとんどないという状況になったため、平成18年に大阪透析医会は透析患者の結核対策についてアンケートを行い、大阪府の担当者に実情を説明し、行政としての適切な対応を陳情しました。その結果、平成20年に大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターに結核透析患者の受け入れが実現しました。

新型インフルエンザ対策については、WHOが新型インフルエンザに関しフェーズ5宣言したのを踏まえ、平成21年5月、川村感染対策委員会委員長以下2名で大阪府健康福祉部保健医療室地域保健感染症課訪問、同月大阪透析施設感染対策委員会設置、メーリングリスト開設し、行政の要請で医会会員施設に「透析医療機関の新型インフルエンザ診療協力」を依頼、140施設に協力施設になっていただきました。同年8月にインフルエンザ罹患患者の入院対応を中心に再度行政と懇談、9月に病院の施設会員向けにアンケートを行いました。また10月の医療従事者向けワクチン配布で、

透析施設向けは大幅に必要数を下回ることが判明したため、行政に折衝し12月の配布分で透析医療機関への重点配分を実現しました。

大阪透析研究会とのコラボレーションも活発に行っております。大阪透析研究会は3月と9月の年2回学術集会を開催しており、平成22年9月までで75回という歴史があります。また毎回1,500名を超える参加者がありますが、この学術集会において、最近、大阪透析医会と研究会の合同で頻繁に講演を企画しています。平成19年3月（第68回）には「大阪府下の結核症の現況」を和田晃先生（国立大阪医療センター）に、平成21年9月（第73回）には「透析室における新型インフルエンザ対策」を隈博政先生（くま腎クリニック）に、平成22年9月（第75回）には、「在宅血液透析のすすめ」を高橋計行先生（恒進會病院）にそれぞれ講演を頂きました。

大阪府下には2万人強の透析患者がおられます。この府下の透析患者のためにも、これまでの大阪透析医会の伝統と実績を引き継ぎ発展させ、大阪の透析関係者が力を合わせ、日本の透析医療の大きな力になれるよう微力ながら努力する所存です。今後もよろしくご指導、ご鞭撻のほどをお願いします。